

# 蝦名 泰洋（えびな・やすひろ）

## 1、プロフィール

青森市生まれの歌人、詩人。「第二の寺山修司」と目された。「月光」新人賞、青森県芸術文化奨励賞、短歌研究評論賞次席。洪水企画の「洪水」に拠っていた。

### <生没>

1956(昭和31)年5月20日 ~ 2021(令和3)年7月26日

### <代表作>

歌集『イーハトーブ喪失』

### <青森との関わり>

青森市生まれ。地元結社には未加入であった。1985年ごろから約10年間旧十和田湖町(現十和田市)に居住。90年代末から青森県を離れ、県外に居住していた。

## 2、作家解説

青森市生まれの歌人、詩人。別名イタリア。

90年代は、寺山修司・岡井隆・春日井建らとともに前衛短歌をリードした福島泰樹主宰の「月光の会」に所属し、同会の新人賞および短歌研究新人賞次席を受賞した。地元結社には未加入であったためか、「青森県歌集」には受賞歴(青森県芸術文化奨励賞)が記載されていない。県歌壇新人賞および県短歌賞の応募歴は不明。口語調の短歌や批評の明晰さに定評があり、ジャンル外の交流も盛んであったことから、周囲には「第二の寺山」と目されていた。

1993(平成5)年、第一歌集『イーハトーブ喪失』(沖積舎)を上梓し、翌年、第21回青森県芸術文化奨励賞を受賞。1994(平成6)年、「伊丹イタリア」の筆名によ

る私家版の詩集『カール ハイイツ ベルナルト』を出版。1996(平成 8)年「文芸あおもり」143 号に短歌・評論等を執筆。1999(平成 11)年に青森県を離れ、茨城県に職を得て、2009(平成 21)年まで働く。2010(平成 22)年、東京・台東区に移り、職を得る。

2011(平成 23)年、洪水企画から発行された野樹かずみ第二歌集『もうひとりのわたしがどこかとおくにいていまこの月をみていると思う』の帯文を執筆。同年、洪水企画の文芸誌「詩と音楽のための洪水」第 8 号より評論欄「雲遊泥泳(なんでもみたりかんでもきいたり)」を担当している。

2013(平成 25)年、野樹氏との「短歌双吟」を 19 年ぶりに再会し、限定的ながら歌壇に復帰した。共著の私家版歌集は 2013(平成 25)年『類人鳥』『天体育ち』、2014(平成 26)年『ピクトグラム』『カノープスを探して』、2015(平成 27)年『夕焼けを見る装置』の 5 冊が発行されている。『夕焼けを見る装置』のあとがきによれば、「短歌を書こうとすると過呼吸になるというのはおおげさですが、からだは短歌から遠ざかっている印象です。」とのことであった。これらの私家版歌集は全国各地の文芸フリマで短歌同人誌「cahiers」のブースにて委託販売されている。蝦名の死後、2021(令和 3)年 9 月に野樹氏との共著『クアドラプル プレイ』(書肆侃侃房)が刊行される。また、2023(令和 5)年には、野樹氏が蝦名の歌稿を編集し、クラウドファンディングによって『ニューヨークの唇』(書肆侃侃房)を刊行した。

「ニューヨークの唇」という本人のブログを開設していた。

### 3、資料紹介

#### ○『ニューヨークの唇』

2023(令和 5)年 6 月 11 日

185mm × 130mm

クラウドファンディングで費用を集め、書肆侃侃房から出版した。第一部「ニューヨークの唇」180 首は蝦名自身が纏め、第二部の「カムパネルラ」は、蝦名と野樹氏の短歌両吟のなかから、野樹氏が選歌、構成した。